



民主党 国会改革案」の危険な側面

昨年11月12日、民主党の政治改革推進本部（本部長・小沢一郎幹事長）は、「国会改革案」を審議・承認した。

この「改革案」は、いくつもの問題点を含んでいるが、最も危険な点は内閣法制局長官を国会答弁から排除する方針である。現行の国会法第六十九条は、人事院総裁、内閣法制局長官、公正取引委員会委員長、公害等調整委員会委員長の4人を「政府特別補佐人」として、国会答弁することを認めている。これを法改正をしてまで内閣法制局長官を排除しようというものである。

民主党の小沢幹事長は、これまでも“(国連決議があれば)自衛隊の海外派兵・武力行使・集団自衛権は現憲法下でも可能だ”との特異な憲法解釈の持ち主だ。一方、内閣法制局は、「自衛隊の海外での武力行使、集団自衛権は違憲」との立場を崩していない。つまり、将来の(小沢氏の持論に沿った)憲法改悪の布石として、内閣法制局長官が「海外派兵、集団自衛権違憲説」を国会で答弁することをあらかじめ排除しておこうというものだ。

今回の政権交代によって、露骨な改憲策動は一見影を潜めたように見える。しかし、国民にはあまり目立たない形で、憲法改悪の布石が着々と敷かれていることに対し、もっと注意を払う必要があると書いている。
(代田4丁目 俣野 景彦)

昨年暮れの鳩山首相の発言。

鳩山由紀夫首相は26日、ラジオ番組の収録で、憲法改正に意欲を示した。9条改正には最初から踏み込まず、「国と地方の関係」などをテーマにまずは民主党内で議論を深める考えだ。ただ、議論に着手する時期は、「政治状況の中でタイミングを考えていく」と述べるにとどめた。

首相は野党時代の2005年に「新憲法草案」(PHP研究所)を出版するなど、憲法改正が持論。護憲を掲げる社民党と連立を組んだこともあり、持論を封印してきた。収録で「憲法改正の議論の道筋はつけるつもりか」と問われたことに答えた。

首相は「ベストな国のあり方のための憲法をつくりたい。必ずしも9条ということではなく、地方と国との関係を変えていきたい」という気持ちがある」と表明。さらに、「憲法順守規定がある首相が声高に主張すると、なかなかうまくいかない。安倍(晋三)元首相が大段から憲法改正を唱えた瞬間に、議論がストップした。党のなかでしっかり議論を頂きたい。しっかりと指導力を発揮して、そこをまとめる」とした。議論の場としては、党内ではなく民主党内とする考えを強調したものだ。改正には衆参各院で3分の2以上の賛成が必要になるためか、「超党派で議論することが非常に大事。議事人としての責任ではないか」とも述べた。

首相、憲法論議に言及

12/21 朝日 「国・地方関係」まず党で

学習会：

衆議院比例定数削減と憲法9条」

今でも、民意を反映していない選挙制度が、ますます、「大政党」に有利となってしまうのです。

このことが、今後の政治や、憲法9条をめぐる動きにどう影響してくるか、私たちはどう考え、どう行動すべきか、などを学習します。

講師：坂本 修 弁護士

「衆議院比例定数削減とは何か」
(新協出版社)の著者

日時：2月28日(日)

午後2時から4時

場所：カラオケ店「ああ星菫館」
(クレープ「街の灯」横)

資料代：500円

是非、お誘いあって、ご参加ください。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめてみましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

ケースワーカー、そして家族として

現在の職場に異動になって、3年が過ぎようとしている。毎日のように、介護で疲弊しきった家族の相談を受ける。3年前の今頃、まさに自分自身が疲弊しきっていた。

92歳の姑は認知症が進み昼夜逆転が始まった。夕方になると目つきが変わる。家に帰ります、と動きも活発になり、気がつく椅子がテーブルの上に乗っていたり、重い百科辞典など引っぱりだして足の上に落とし、血だらけになっていた。雨戸を開けて大声で叫んだり…。帰宅するとベッド脇で転んでおり大腿骨頸部骨折、入院しあっけなく亡くなってしまった。自分で介護はできない、でも長生きして欲しい。現代人の正直な家族の気持ちだ。

私自身、20年近い介護職として、また家族として考えても近くの特別養護老人ホームに入所することが理想だ。そうすれば休みの度に顔を見に行き、同じ話を100回でも笑って聞いてあげられる。

現在、世田谷区では約2400人の方が、特別養護老人ホームへの入所待ちの状態にある。特養ホームの増設こそ緊急の課題だと思う。米軍への思いやりより、これまで日本の発展に尽くしてきた高齢者への思いやりを、より大切にしてもらいたいものである。
(代田1丁目 S.A.)

私は間違っていました。」とは絶対に言わない 非転向を貫く

地元代田1丁目にある劇団「東演」は昨年創立50周年、「東演パラータ」第1期改修工事を終え、新たな第一歩の公演は2月に劇団初めての井上ひさし戯曲「貧乏物語」である。

時は昭和9年の春・戦前社会で自由と民主主義が最も過酷に否定された時期のお話。

マルクス経済学者 河上肇博士が小菅刑務所に収監されている間、留守宅を守る家族とその仲間(全員女性)のある1週間が舞台。出演者6人が河上家の生活の様子を、賑やかなおしゃべりで繰り広げる。

河上肇と家族が受ける迫害は天皇制権力・特高警察が狡猾な謀略で「転向」を迫る渦中にあった。

河上肇を「転向者」に仕立て国から見て「民衆の大きな広告塔」を引き倒そうとする謀略を見抜き、毅然とした生き方を決意する河上家を守る女達の物語。

物語には河上肇は登場しないが、女たちの会話の中に生き生きと描かれ、緊迫した状況に置かれていることが伝わる。獄中の肇はこの女たちの力に支えられて非転向を貫いたのではないだろうか。

機会があればぜひご覧になって頂きたいお芝居です。

(代田1丁目 菊池政枝)

集会等の紹介

2月26日(金)～3月2日(火) 14:00からと 19:00から

きなせ企画 No.30 「秩父の夜は更けて」 湯沢さんが出演します。

会場：三鷹武蔵野芸能劇場 (JR中央線三鷹駅北口すぐ)

問い合わせ：きなせ企画 Tel03-3981-4149 入場料：3800円

3月6日(土) 13:30～16:30

東京大空襲を語り継ぐつどい

合唱・お話(日色ともゑさんほか)

参加費 500円 事前登録制 下記実行委員会まで

会場：カメラホール (JR総武線亀戸駅下車徒歩2分)

連絡先 実行委員会 Tel 03-5857-5631 Fax 03-5683-3326

3月14日(日) 13:00～16:30

「九条科学者の会・発足5周年記念の集い」 講演「新しい情勢の下での九条運動」 渡辺治

会場：明治大学(駿河台) リバティタワー 1階 1011号教室

(JR御茶ノ水駅徒歩4分、千代田区神田駿河台一丁目1)

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない

